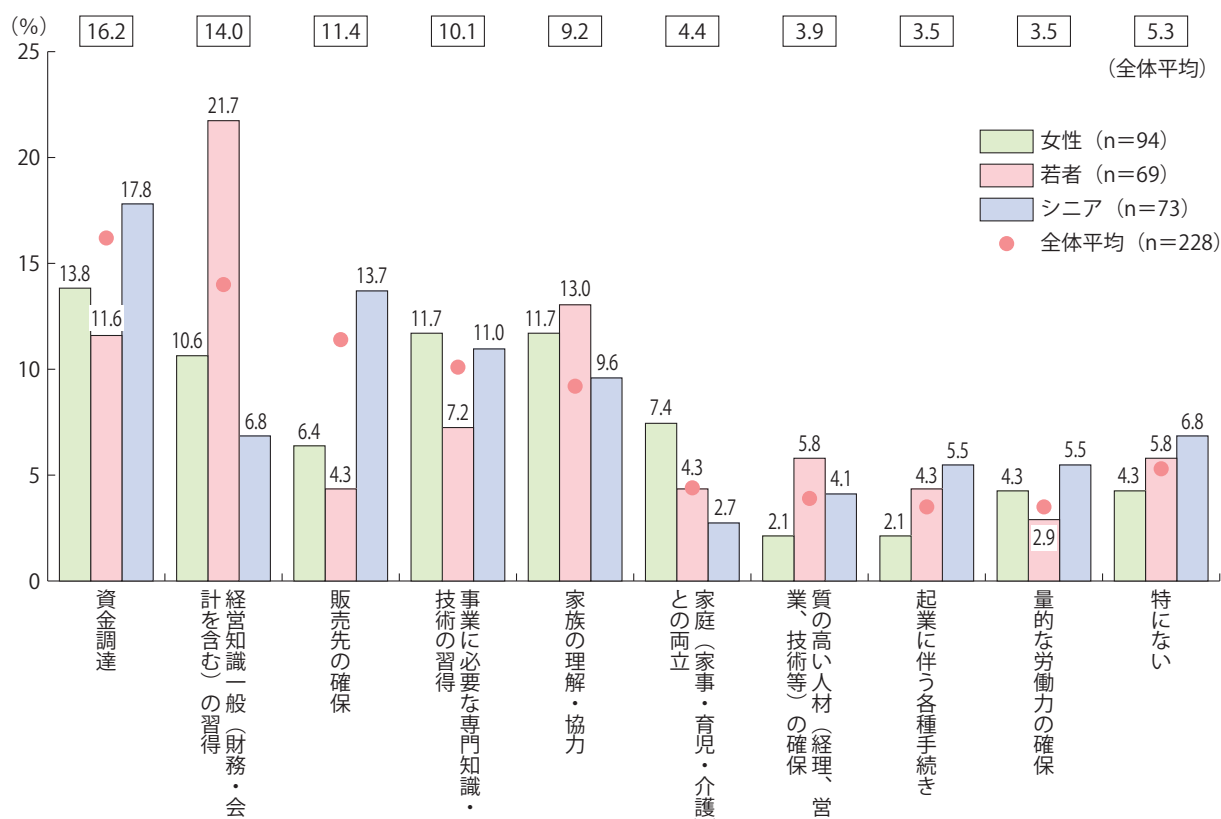


第3-2-29図

起業家が起業を断念しそうになった際に直面した課題



資料：中小企業庁委託「日本の起業環境及び潜在的起業家に関する調査」（2013年12月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)）

(注) 1. 回答の割合が高い上位10項目を表示している。

2. 起業家が起業を断念しそうになった際に直面した課題について1位から3位を回答してもらった中で、1位として回答されたものを集計している。

では、起業について断念しそうになった際の、相談相手の有無について、第3-2-30図を見てみる。全体では、6割弱に相談相手があったが、逆にいえば、4割強においては相談相手がいない。起業を断念しそうになった時でさえ、相談する人がいない事実は、我が国の起業の準備を行う者が誰に相談することもなく、孤独に起業の準備を進めているというのが実態であることを示唆している。こうした現状を変えるためにも、自治体や中小企業支援機関等が起業に関する「相談窓口」としての役割を担うとともに、創業スクール¹³や起業の予備軍の掘り起こし、起業マインドの向上

を目的とした起業セミナーを気軽に利用できるような環境の整備が求められる。この点は、第3節で論じる。

女性、若者、シニアの特徴を見てみると、女性は全体平均に比べて相談相手が多く、また、若者は約8割において相談相手がいる。若者は前述のように起業を断念しそうになる経験が多い一方で、起業の実現に向けて手応えを感じる傾向があるが、周囲の相談者の存在がその一因ではないかと考えられる。他方で、シニアは、5割強において相談相手がいないというのが実態である。

¹³ 詳細はコラム3-2-3を参照。